



Malaysia クライミング情報

By RCT 2010/07/27



<はじめに>

●マレーシアといえば、ボルネオ島サバ州にある高峰キナバル山が日本では有名ですが、スポーツ&トラッドクライミングやボルダリングなどのエリアについてはほとんど知られていません。日本人クライマーにとっては馴染みの薄いマレーシアのクライミングですが、2010年6月から7月にかけて1週間ほどクアラルンプール郊外にあるバツケーヴにてクライミングをする機会を持つことができました。

以下バツケーヴを中心に、他のエリアも含めてマレーシアのクライミング情報をまとめましたので、興味関心のある方はご覧になってください。

なお、日本からマレーシア入国およびクアラルンプールまでのアクセスについては、一般の旅行ガイドを参照してください。(右写真: BATU CAVES Hindu Temple)

<一般的情報>

●マレーシア・マレー半島の主なフリー・クライミング・エリアとバツ・ケーヴ

<http://www.asahi-net.or.jp/~ca7s-kbys/malaysia2/malaysia2.html>

●トボ集とクライミング・ギア

CLIMB MALAYSIA ROCK CLIMBING GUIDEBOOK

Price: \$23.95 2007.256 p カラー写真。



398 ルートを網羅し、32 ページの特別なセクションには、キナバル山での岩登りも掲載されているとのこと。マレーシアにて購入する予定であったが、大きな本屋でもテクニク本はあったが、トボ集は見当たらず、購入できなかった。ダマイ・ウォールで会った現地のクライミング・インストラクターの話では、クライミング・ジムやスクールで手に入るとのこと。ギア類もジムなどで販売しているとのこと。どうしても必要な場合は KL 市内のジムに行ってみるとよい。インストラクターの話では、このトボ集はシンガポール版で高いので同じ内容のマレーシア版がよく、値段は 40RM (1200 円) とのこと。購入していないので、全く内容が同じで、英語版かは不明。

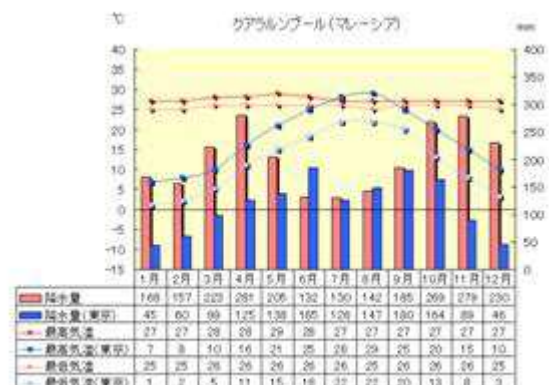
どうしてもでなければ、ネットで簡単なトボが手に入るの、それで間に合わせることも可能。今回私たちはネットのトボで登ってきた。

ギアについては、KL 市内で簡単には手に入るかどうか分からないので、一応日本から持参するのが良い。ルートが長いので、60mロープ、ヌンチャクは 20 本、カムナッツはバツケーヴの場合はほぼ必要なし。スリングは 2-3 本程度。結び替えが多いので環付ビナも持参のこと。チョークは暑い割にはあまり使わなかったがやはり無いと困るので、日数分は持っていきたい。

ギア類もジムなどで販売しているとのことなので、どうしても必要な場合は KL 市内のジムに行ってみるとよい。

●気候とクライミング・シーズン

マレーシアの気候は“熱帯性気候”である。、気温については年間を通して変化が少なく、雨季は4月から6月、9月から11月とのことだが、クライミングは1年中可能である。実は、表の降水量をみて、今回6月末から7月にかけてツアーを組んだが、実は地元のクライマーに言



わせると、曇りや雨の多くなる9月から1月ぐらいが雨が降っても登れる場所があり、濡れてもすぐ乾くので、クライミングにとっては良いシーズンとのこと。

考えるに、熱帯で暑さをしのぎ、ある程度快適に登るには、曇りがちのほうが好都合であるし、南回帰線に太陽が近づき、岩場が日陰になる方が直射日光を避けることができるので、納得のいく話である。

今回殆んどクライマーに合わなかったのは、そのような理由もあると思われるが、日本の蒸し暑さに比べたら、マレーシアは乾いた暑さという感じで、意外と快適である。また、夕方から夜中、朝まではそれほど暑くなく、蒸し暑さがないので、良く眠れる。しかしながらクライミングで直射日光を受けるような場所では、熱中症にならないよう多めの飲料水を持参すること。ミネラルウォーターは何処でも安く手に入る。着替えは必ず持参。やはり綿100%が良い。

●宿泊・食事・買い物

今回宿泊は航空券とセットで予約したため、クアラルンプール中心ともいえるチャイナタウンにあるホテル「スイス イン」を利用した。中程度のホテルで、ルームキーのデポジット代として、チェックイン時100RM（チェックアウト時戻ってくる）支払う必要あり。部屋は窓がなかったが、シンプルで小ざれいであり、従業員の対応も良く、滞在中のトラブルはなかった。朝食付きで、朝は一階（グラウンドフロア）のレストランでバイキング形式である。タクシーもホテルの前で拾える。

チャイナタウンは中程度のホテルやバックパッカーズ宿が数多くあり、夜の通りには屋台が出て賑やかで、近くにはセントラルマーケットやパサール・セニ駅、さらに近郊や地方を結ぶバスターミナルもあって、買い物、食事、移動に、観光にと、非常に便利な場所である。

バツケイヴ周辺にも宿泊できそうなホテルはあるが、クライミングだけならともかく、他の楽しみまで考慮すると、ちょっとお薦めできない。

飲食における注意事項としては、レストランやホテルであっても、生もの、生水は避けること。沸かした水を使う場合などは、うがい用のイソジンを含め念のため1滴垂らしておくといよい。少しでも体調を崩したらクライミングできないことを念頭に置いて注意するに越したことはない。

●クライミング・ジム

今回クライミング・ジムには行く機会がなかったので具体的な情報はない。ネットで引き出すと以下の情報が得られるので、興味のある方は行ってみてください。google 地図で住所を検索すれば場所はほぼ分かります

●Camp 5

EZ501, 5th Floor, 1

Utama Shopping Centre, Bandar Utama

47800, Petaling Jaya. Kuala Lumpur, Malaysia

603 784 555 61

<http://camp5.com>

> Indoor climbing wall with 12 meter top rope walls, 8m trad rock-like wall with 16m lead climbing walls. Slabs, roofs, dihedrals and 5.5m overhang. 300 square meters of bouldering on 2 free standing boulder blocks with a 5m top out.

●MadMonkeyz Climbing Gym

19-1, Jalan Metro Wangsa, Wangsa Maju

Section 2, Wangsa Maju

Kuala Lumpur, Setapak, Malaysia 53300

+603 4142 0698

<http://www.madmonkeyzclimbing.com>

> MadMonkeyz Climbing in Malaysia is dedicated to bouldering and movement training for climbing. Located at Wangsa Maju, Madmonkeyz is accessible by public transportation and is open 7 days a week offering great routes and a comfortable atmosphere to train in.

●クライミング情報サイト

以下、参考になりそうなサイトを紹介します。サイトからトポも手に入る。念のため、ダウンロード時はセキュリティ対策を万全にしてください。

http://www.nomadadventure.com/climbing.php?section=outdoor&page=outdoor_index

<http://longadventure.com/climbing/index.html>

<http://www.xes.cx/MT/archives/rock-climbing/>

<http://figur8.net/sports/climbing-in-asia/>

<http://www.vertical-adventure.com/index.html>

<http://www.facebook.com/photo.php?pid=2142858&o=all&op=1&view=all&subj=7071554316&aid=-1&id=721683175&oid=7071554316>

<http://www.putraclimb.com/>

<http://skjongphotography.blogspot.com/2009/12/batman-wall.html>

●蚊除け対策

今回、クライミングをした場所では、さほど蚊の多さは感じなかったが、日陰で湿気が多い場所には飛び回っていた。やはり、蚊取り線香、防虫スプレー、虫刺され薬は必需品である。最近野外で使える電池式の電子蚊とり器も有効と思われる。

ちなみに、マレーシアで注意すべき蚊の種類は、夜に吸血しマラリア原虫を媒介する「ハマダラカ」と日中に吸血しデング熱を媒介する「ネッタイシマカ」である。

マラリアの危険性はボルネオ島などの奥地では高いようだが、マレー半島では殆んどないようだ。クライミングでは「ネッタイシマカ」の方が問題で、これは日本にもいる「ヒトスジシマカ」と同類の凶暴な蚊で、ちょっとした水溜りの水際に産卵し、その水が干上がっても、何日か後の雨で水溜りができると孵化して成虫になってしまうという生命力の強いやつである。蚊の蛹は他の昆虫の蛹と違い、実は水の中で動きまわっている。俗称「オニボウフラ」とも呼ばれるが、興味のある方は生態図鑑などで調べてみてください。

●通貨

マレーシアのお金 RM (50,10,5,1 リンギット紙幣) とセント貨幣 (50,20,10,5)。他に 100RM もあるが、大きすぎて使いにくいので、換金時は小さな額の札を多めにした方が便利である。

買い物では 10RM 以下をよく使い、庶民的な店、電車やバスなどは 1RM とコイン (セント) が何枚もあると支払いがしやすい。

ちなみにトイレは有料で概ね 0.2RM (20 セント)。またお釣りをもらえないこともあるので、タクシーやトイレなどの支払い時はきっちりとお釣りをしで払えるよう小銭を持ち合わせていると良い。1RM

は約 30 円程 (2010 年 6 月末現在) である。日本ではリンギット紙幣の換金はできないので、出国前に換金する必要あり。

●トイレ

マレーシアでは公衆トイレを見つけるのが非常に難しい。有料の観光施設やデパート、駅の改札内には無料トイレが見受けられるが、一般的にはショッピングモール内も含めて有料トイレが多い。値段は 1 人 20 から 30 セント程度だが、ペトロナス・ツイン・タワー下のスリア KLCC ショッピング・モールに 2RM のトイレがあったのには驚いた。釣り銭がもらえないことがあるので、小銭を準備しておいた方がよい。

トイレには紙が設置されていないので持参する必要あり。下水管が細いようで、詰まりやすいため、拭いた紙はトイレに流さずトイレ内の屑かごに捨てる。地元の人はトイレ内にある水道のホースで左手を使いきれいにしようだが、同じようにやる必要はない。便は水洗でない場合は、汲んである桶の水を使い流す。

クライミングエリアでトイレがない場所があるが、なるべくホテルで大便を済ませて行くよう心がけた



い。仕方なく岩場である場合は、場所を選んで 15cm ほどの穴を掘り、済ませてから埋めて、拭いた紙はビニール袋に入れホテルまで持ち帰り捨てるようにしたい。

●コンセント・プラグ

デジカメや携帯電話の充電をするには、マレーシアのコンセントに合わせたプラグ（一般的に BF 型）が必要である。最近の充電器は海外の電圧に対応しているものがほとんどで、渡航先で使われているコンセントの差し込み口に合わせたプラグを持参すれば充電に困ることはない。私たちが宿泊したホテルも BF 型で、コンセント自体にもスイッチが付いており、安全面で意外と優れたものかも。



<バツケイヴ岩場情報>

●アクセス

・タクシー

今回の岩場までのアクセスの往路の全てをタクシー利用した。ケイヴまではほぼ 13 km で、20 分程度である。バスで行けなくはないが、時間のロスを考えるとタクシーが最も便利である。先ず、ホテルの前の通りに 8 時頃に出てミータータクシーであることを確認して声をかけるが、時にはヒンドゥー寺院までは行くが、クライミングエリアまでは行かないというタクシーもある。しかし大体は毎日クライミングに行っていると同じ運転手が声をかけてくる。結局ミーターでは行かず、交渉でいくらという風になることがほとんどである。エリアにもよるが、料金はおよそ 20RM から 30RM というところで、交渉が成立する。実際の料金は多分 15RM 程度である。エリアを知らない運転手が殆んどなので、地図や写真（これらも分からない場合がある）を持参した方がよい。支払いは約束した金額でお釣りのないように払う。運転手により、遠くまで来たので、さらにお金を払えという者もいるが、もともと多めの料金なのだから、無視して約束通りの金額だけ払うのがよい。

多分、ヒンドゥー寺院の見学にも行くだろうが、復路、寺院の敷地内でタクシーを拾うと、50RM 程度に吹っ掛けてくる。そのような時は外の大通りでタクシーを拾うか、バスを利用することもできる。

復路のタクシー利用は、車の通りが多いところまで出る必要があるが、Damai Wall 周辺のエリアと、Nyamuk Wall の場合、バツケイヴ南側の大通りまでは遠いのでそれより手前で拾うが、拾いにくいのが難点である。

・バス

復路で時間に余裕があるならばバスを利用するのも楽しい。しかも断然に安い。今回 1 回だけクライミング後にバスを利用してチャイナタウンに戻ってみた。ヒンドゥー寺院まで歩ける距離にある、Comic、Roadshow、Nanyang、そして少し無理をすれば Volleyball Court ぐらいまでは、バス利用は簡単である。実は他のエリアもバス停さえ分かれば、チャイナタウン、セントラル・マーケットに戻るバスがあるので、調べてみるとよい。バスのナンバーは、ヒンドゥー寺院からは No.11、Nyamuk 壁近くのポルトン工業団地からは No.42、Damai 壁近くの Pingiran バツ洞窟のバス停からは No.14、また、LOT10 に戻るには、Pingiran バツ洞窟のバス停から No.41 とのこと。



バスに乗り込んだら、車掌が回ってくるので、行き先を告げて切符を買う。買うと車掌が切符に使用済みの裂け目を入れる。切符は降車時渡す必要はない。料金はバツケイヴ・ヒンドゥー寺院からチャイナタウン、セントラル・マーケット前までで、1人 2.5RM で、2人で 5RM で帰ることができた。

・レンタカー

今回レンタカーは利用しなかったが、ホテルに頼めば手配してくれるようだ。マレーシアは英国の植民地だったこともあり、日本と同じ右ハンドルで、左側通行である。道路は広く快適だが、KL 中心部では渋滞も見られる。また、信号は車は守っているが、通行人は殆んど守っていないと言っても過言ではなく、通行人に充分注意が必要である。クライミングエリアの駐車は Nyamuk 壁は路上となるようだが、他は問題はない。地方のエリアに行く場合は利用価値があるとは思いますが、バツケイヴの場合は、運転で気を使うことを考えると、あまりお勧めしない。

・電車

現在、セントウルからバツ洞窟へ、新たに KTM Komuter がレール拡張されて、バツ洞窟 Komuter 駅 が開設され、2010 年運用開始される予定であるとのことだが、今回訪れた時点ではまだ開業とはなっていない。これが利用できると、ヒンドゥー寺院近くの、Comic、Roadshoe、Nanyang などのエリアは、便利になる。

●トボ

<http://longadventure.com/climbing/index.html>

<http://figur8.net/sports/climbing-in-asia/>

●各エリア概要

○Damai Wall

バツ洞窟で最も整備されたエリア。初心者やスクールにとっては明るく快適な場所といえるが中級者、上級者にとっては物足りないのではないかと思う。駐車場も横にある。トイレはサッカーコート横にあり、管理を任されている青年がいれば開けておいてもらえる。壁の前は公園になっており、東屋やクライミングボードも設置されている。ダマイのルートは、最も初心者向けのジャグホールドが多く、傾斜は 90 度を超える部分は少ない。ルートを登った感じは同じようなタイプのルートが多く個性的なラインは少ないように感じた。プロテクションはグージョン+ハンガーでしっかりしており問題はない。マルチピッチラインも含め、30 以上のルート数があり、ラインが長いので易しくても充実する。ダマイの最も顕著な特徴は、約 20 メートルのところにある、大きい玉石「スタック」の挟まる巨大な洞窟である。明るく開けた場所だが、ここで置き引きにあったので注意。何は無くとも気をつけるのに越したことはない。



クライミングの当日、壁を整備しに来たインストラクターと話をした。彼の事務所にガイドブックがあるので持ってきてくれるという話であったが、結局持ってきてもらえなかった。彼のブログは以下の通り。

<http://www.guadamai.blogspot.com/>

○Red Rocks

レッド・ロックスはダマイの北西にある小さなエリアであり、民家を通り、10 分程の徒歩でアクセス可能である。

壁は岩の色から瞬時に認識可能で、ルートは 5C から 7B の範囲の難しさである。鍾乳石、石筍、オーバーハング、および隠しポケットにを使った様々なタイプのテクニックの必要なラインがある。今回ここには行かなかったが、写真を見た感じでは前傾しており面白そうだ。日本人の吉田潔氏の作ったラインもあるとのこと。

○White Wall

ホワイト壁はダマイ壁の南東方向にあり、ダマイエリアから徒歩でアクセス可能であるが、今回は行く機会がなかった。遠くから見ると、非常にきれいな壁であり、ここでのクライミングにおいては、非常にテクニカルで、長く滑らかなルートに挑戦をすることができるとのこと。ルートの難易度は 6A から始まり、いくつかのルート 2 ピッチ目ではトラッドクライミングができる。



○Nyamuk Wall

「Nyamuk」とはマレー語で「蚊」を意味する。その名の通り蚊が多い。いわずもがな「ネットアイシマカ」であるが、クライマーの間でこのエリアは何回もクリーンアップの努力がなされ、その数は激減しているとのこと。

Nyamuk はバツ洞窟では、最新クライミングホットスポットであり、岩は白くきれいで、大きなコルネが少ない。簡単な 5B から西マレーシアで最も困難な 8A までの膨大な数のルートが存在し、また、現時点で、登られていない、グレーディングもされていない公開プロジェクトもある。Nyamuk のルートは石灰岩の多種多様な内容を持つとともに、良好な 20m を超える長いルートを提供している。そのため、Nyamuk で登るときは 60 m ロープは間違いなく必要がある。ボルダリング ルートも沢山あり、そのためには クラッシュパッドも必要である。グレード はダメイよりもはるかに困難だが、感覚的には国際規格の格付けとほぼ一致している。プロテクションは何本かを除きケミカルアンカーが使用されており、安心して登れ問題ない。

アプローチは、タクシーを降りた車道から路地を真っ直ぐ入って行き、最後のどん詰まりの1つ手前を左へ曲がり、直ぐに右に回る。民家の庭先の様な所を通り藪の中を抜けると壁の中央あたりに着く。左はロングルートが何本もあり、右は坂を登ると大テラスがあって蚊も少なそうだったので、今回はショートルートの多い右側で登る。ここは風もあり、木陰もあって、壁は陽が当り暑いものの、意外と快適に登れた。トイレは無いので、朝ホテルでできるだけ済ませて行くこと。仕方なくする場合は、穴に埋め、紙は持ちかえること。

○Volleyball Court Wall

路地の奥に見える壁がバレーボールコートエリア。入口にお店があり、入っていくと以前バレーボールコートがあった場所は私有地で、資産家が建てたゲストハウスの様なものが建っている。左は同じ持主であろうクライミングとケイヴィングガイドの事務所(不在)、そして2階にクライミングボードもある。クライミングをするには私有地利用料として一人 5 RM の支払いが必要であるが、整備されているので納得できる。



右奥のハングした岩の下にウッドデッキと椅子があり、のんびりくつろげるとともに、車の見える左奥にはトイレも設置されている。壁は、左に大きなコルネがあり、その右は薄かぶりのきれいなフェイス。その右は出だしが垂直で上部は傾斜が落ちる。さらにラダーの右に薄かぶりのルートが2本ほどある。

プロテクションは、ゲージョン+ハンガー。本数は少なく、グレードは一部辛い、面白そうなラインが数本ある。各ルートの取りつきには低めのフェンスがあり怪我をし兼ねないので、1本目はプリクリップが良い。またランナウトするルートが多いので、ビレイは細心の注意を払う必要あり。

○Nanyang Wall

Nanyang 壁は LALAN CAVES の大通りから簡単にアクセス可能である。小さなヒンドゥー寺院への橋を渡り、右に岩に沿って行くと、先ずロードショウ壁がありさらに回り込むように進むと北東面に回り込める。道路側の洞窟がこちら側まで貫通しているようで入口があるが、施錠されている。



ルートは簡単な 5c から困難な 7c まであり、主に、6a と 6c の 範囲にルート数が集中している。回り込んだところの北側は工場の芝生になっており、柵で囲まれている。柵と岩の間が通路になっており、ルートの取りつきにもなっている。右側は大きなコルネと手がかりの少ないスラブ状のフェイスで構成され、左側と東側はコルネの多い前傾壁で構成されている。プロテクションはゲージョン+ハンガーで概ね問題ない。グレードは一部非常に辛めのところがあるように感じられた。

面白そうな壁だが下にゴミや建築廃材が散らかっており、ゴミを燃した為か、岩が煤で汚れている。アクセスやアプローチも良く、近くにはお店や食堂などもあり便利なので、もう少し環境が良くなれば素晴らしい岩場になるのではないかとと思われる。

さらに気になるのは、工場側のフェンスに、悪戯をする猿への見せしめか、猿の死骸がぶら下がっており、臭いが気になりクライミングに集中できなかったのが残念である。誰の行為かわからないが、これはちょっと問題である。トイレは大通り側のヒンドゥー寺院入口のトイレを利用する。

○Roadshow Wall

ロードショウ壁は Nanyang 壁に行く途中にあり、目立つ存在だが、やはり下に多量のゴミがあり、あまり雰囲気は良くない。正面に難しめのラインが数本あり、右のパツとしない壁に易しいラインが何本かある。プロテクションはグージョン+ハンガーである。

○Comic Wall

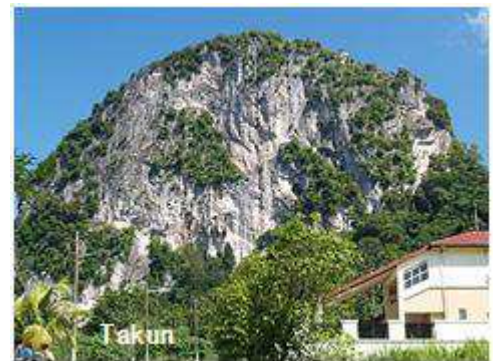
コミック壁は大通りの橋を渡り、前述の小さなヒンドゥー寺院から左に少し登ったところにある。壁はオーバーハングしており、雨の時でも登れるエリアである。雨が降りだしたり、予報が雨の時はここでクライミングができる。はっきりした岩の状況は今回ここで登っていないので分からないが、道路側に大きな岩があり、暗い感じがするので、蚊が多そうである。プロテクションの状態は不明だが他のエリアの状況を見ると、多分大丈夫だと思われる。グレードは 5C から 7A の範囲で、ほとんどのラインで非常にテクニカルでフィジカルな挑戦ができるとのこと。トイレは前述のヒンドゥー寺院のトイレが使用できる。



<その他のクライミングエリア概要>--クライミング情報サイトから写真を借用

●Bukit Takun (Selangor 州)

Bukit Takun はバツケーヴから北西の方向、JALAN Ipoh 沿いの Templer の公園ゴルフ場近くにある岩峰で、KL から車で 1 時間程度の距離にある。ここは様々なスポーツとトラッドの両方でクライミングが可能である。全てのクライミングエリアは、アプローチで少しばかりのハイキングが必要である。ここはまだまだトラッドクライミングと一部 multi-pitch クライミングではマレーシアにおける最高のスポットであるとのこと。岩質は花崗岩との情報もあるが、写真を見た感じでは石灰岩ではないかと思われる。蚊が多いので蚊取り線香を忘れずに。



<http://longadventure.com/climbing/index.html>

●Ipoh The Lost World Of Tambun (Perak 州)

Tambun の失われた世界は KL から車で約 2 時間のイポーの町にある。周りには、公園、遊園地、滝、白砂のビーチ、天然温泉などがあり、400 万年前に形成された石灰岩の壁に合計 50 本のクライミングルートがある。最近では、6 人の世界のトップクライマーからなる Mammut Pro チームが「Tambun のニードル」(80 メートル) を登るために集まったとのこと。

車で 2 時間ほどならタクシーを利用できるが、そこまで行ってくれる運転手がいるかどうかである。1 日貸切、往復ということで交渉してみるのも良いかも。

<http://www.vertical-adventure.com/rock-climbing.html>



●Gua Musang (Kelantan 州)

Gua Musang はケラントンの国境沿いに位置する小さな町で、クアラルンプールから約 4 時間のドライブで行ける。途中で、どこにでも石灰岩の壁があり、明らかに今後のスポーツクライミングの多大な可能性を秘めている。

タマンは Etnobotani Gua Musang の町から車で約 5 分で、エリアハウスにはさまざまなキャンプ施設があり、レクリエーション活動などを行っている。公園内のシャレー (寮) または Gua Musang 町のホテルで、宿泊が可能である。クライミングのエリアは、キャンプ場から徒歩圏内にある。岩質は石灰岩。

<http://longadventure.com/climbing/index.html>

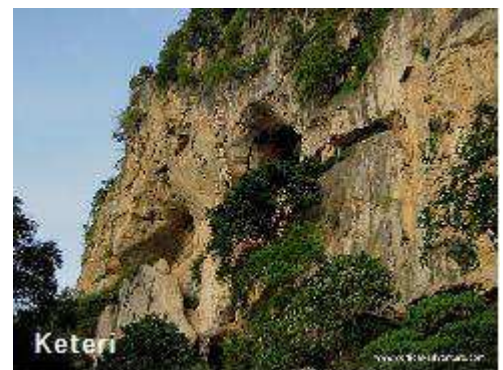


●Bukit Keteri (Perlis 州)

タイとの国境に近いペルリス州の穀倉地帯のど真ん中に聳える石灰岩の岩峰。KL から車で 5 時間ほどで行ける距離にある。ここには 5a から 8c までの 50 ルートがあり、このエリアはマンモスと camp5 による国際チームにより開拓されたものである。ビデオや写真を見る限りロケーションも良く、素晴らしいルートが並んでいる。ここは KL よりもタイのクラブに近い位置にあり、タイからマレーシアへと抜けるクライミングツアーを組む場合好都合な場所である。

この近くにはランカウイ島もあり、まだまだ手のつけられていない石灰岩壁も多いようで、今後楽しみな地域である。

<http://www.vertical-adventure.com/rock-climbing.html>



●Batman Wall (Sarawak 州)

ボルネオ島のサラワク州、クチン City の近くにあるフェアリーケイヴという場所にある。この壁はこの地方でのスポーツクライミングを促進するために開拓されたもので、バットマン壁はフェアリーケイヴの入口にあり、他にはフェアリーケイヴの壁の最上部に Nepenthes 壁がある。バットマン壁は出だしが被っており、バットマンスタートもあり？

クチンの近くには他に花崗岩の Bukit Batu Tapang という大きなスラブ壁もあるようだ。

<http://skjongphotography.blogspot.com/2009/12/batman-wall.html>

●他のクライミング・エリア

マレーシアには他にも大小様々なクライミングエリアがあるようです。ネットからの情報によれば、Bukit Keteri と同じ Perlis 州にある観光洞 Gua Kelam、他に Penang の Jesselton Park、Langkawi 島、さらに Tampin や Tioman Island、Perhentian Islands、Teluk Cempedak などにもボルダリングやスポーツ・クライミング、そしてマルチピッチのクライミングエリアがあるようです。

<http://longadventure.com/climbing/index.html>

<http://www.vertical-adventure.com/rock-climbing.html>

<http://figur8.net/sports/climbing-in-asia/>

<http://www.putraclimb.com/>

